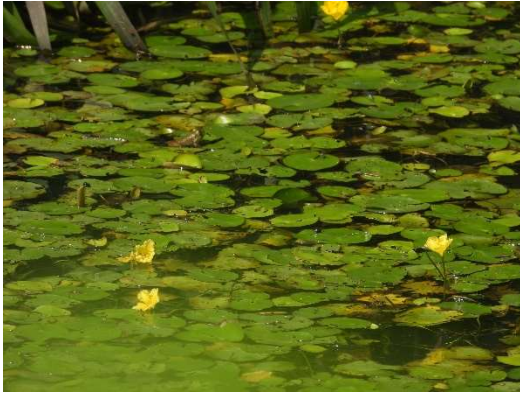


# 風土記の丘の花だより<sup>239</sup>

今、そしてこれから見られる植物(2024年6月11日)

梅雨入りが例年より遅れているようです。これだけ暑くなってくると、一雨ほしいと思うようになります。勝手なものです。今、オカトラノオがとてもきれいです。また、万葉植物園のサカキも、ここ何年かのうちで、花付きがいちばんいいように思います。



新池(藤棚の西側)を覗いてみてください。黄色い花がたくさん浮かぶように咲いています。アサザの花です。アサザは浅い池などに生える水草ですが、このごろそのような水環境が少なくなり、見ることが少なくなってきたちょっと珍しいミツガシワ科の植物です。上からでは見えませんが、花びらの周りがレースのようにヒラヒラしています。ここのアサザは自生ではなく、万葉植物園で栽培されていたものを株分けして移植したもので、今では一面に広がっています。



中央の階段の途中にアメリカデイゴの真っ赤な花が咲いています。とても印象的というか、衝撃的というか、一度見たら忘れられない花ですね。ブラジルあたりが原産で、江戸時代に庭木として持ち込まれたといわれています。有名な歌に「デイゴの花が咲き〜」という歌詞がありますが、そのデイゴとは違います。デイゴは沖縄など暖かい地方で栽培され、もっと大きくなります。花の色も、アメリカデイゴがオレンジ色っぽい赤なのに対して、デイゴは少し赤黒く見えます。写真のような黄色い星形の花が足もとに咲いていませんか。コモチマンネングサの花です。コモチとは「子持ち」のことで、枠内の写真のように、葉の腋に小さな芽(珠芽とか無性芽とかいいます)を付けるので、こんな名前が付けました。これがポロリと落ちて、新しい株になり、ふえていきます。万年草という名前のとおり、標本にするために押し花にしても、なかなか乾燥せず、いつまで元気であることがよくあります。本当に万年かかりそうです。



ツククサの花が咲き始めています。身近な花でこんなに鮮やかな青色のものは他には思いつきませんね。3枚ある花びらのうち、2枚の青い花びらばかりが目立ちますが、下側には控えめに白い花びらが1枚付いています。黄色いのはおしべのやくです。梅雨時の花のイメージがありますが、秋ごろまで咲き続けます。一つの花は朝に咲いて、昼過ぎには閉じてしましますが、次から次に咲くので、長い間花を楽しめます。昔は「つきくさ」と呼んで、衣を染めるのに用いました。しかしすぐに色

あせることから、移ろいやすい恋心に例えた歌が万葉集に残されています。

松下